

## 令和元年度第3回学区審議会 会議概要

### 1 開催日時

令和2年3月16日（月） 午前10時00分から午前11時00分まで

### 2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 5階 502会議室

### 3 出席者

（委員）

江邨会長、濱田会長職務代理者、藤崎委員、村田委員、亀崎委員、渡邊委員、松本委員、加瀬林委員及び郡司委員

（事務局）

関川教育長、神山教育部長、松島教育総務課長、竹尾学務課長、大徳学務課副参事、益田学務課管理主事及び西里管理主事

### 4 議題

（1）報告第1号 指定学校変更・区域外就学の手続きについて

令和3年度 部活動による指定学校変更の受け入れ制限について

（2）報告第2号 指定学校変更・区域外就学の状況について

令和元年度中の指定学校変更・区域外就学の状況及び令和2年度部活動による指定学校変更の状況について

（3）報告第3号 豊住小学校の教育活動・教育環境に関するアンケートについて

### 5 議事（要旨）

報告第1号として、令和3年度における部活動による指定学校変更の受け入れ制限について、これまでに引き続き指定学校変更の受け入れを制限することを報告した。

指定学校変更許可基準の要件10「部活動によるもの」では、その条件として「受け入れる学校の収容力が、将来的にも余裕があること」としており、毎年確認することとなっている。

理由としては、成田中学校は普通教室数が不足しており、令和3年度以降も解消の見込みがなく、普通教室数に余裕はないことと、現在、生徒会室や適応指導教室を普通教室として活用している状況であるためである。なお、令和3年度は制限を行わないものの、今後生徒数の増加に伴い、教室数が不足する可能性があるため、生徒数の推移に注視する必要があることについても説明を行った。

本件に関する委員からの質問・意見は特になかった。

次に、報告第2号として、指定学校変更・区域外就学の状況について報告を行った。令和元年度内には、小学校においては、今年度160名、中学校においては101名の計261名の児童生徒が指定学校からの変更を行った。また、令和2年度新生入生において、部活動による指定学校変更を予定している生徒は6名で

あった。本件に関して、委員からあった発言内容は次のとおりである。

郡司委員 平成小学校については児童数の増加に伴い、校舎の増築等が予定されていると伺ったが、その状況を確認したい。

事務局 並木町での開発などによる児童数の増加を見込んでいることと、仮設校舎の解消を目指して、平成小学校は令和5年度からの使用を目指して、増築を行う予定である。

次に、報告第3号について、令和2年1月から2月にかけて実施した豊住小学校に在籍する児童の保護者を対象としたアンケート結果の報告を行い、アンケート結果を踏まえ、教育委員会としては、小規模校の特色を生かしながら、児童数の確保を目指し、豊住小学校を市内全域からの通学が可能となる「小規模特認校」の導入について考えていきたいとの意向を示し、委員からの意見を伺った。委員からの発言は次のとおりである。

渡邊委員 アンケートの対象となった世帯数は。

事務局 世帯数は把握していないが、今回は児童数でアンケートの回答を依頼しているので、世帯数ではなく児童数分回答をいただいている。

郡司委員 アンケートの集計結果について、学年間の相違はあるか。

事務局 自由記述欄においては、児童減少に伴う不安の声は低学年に多くあり、高学年の方が少人数での学習活動などに肯定的に捉えている傾向がある。

藤崎委員 小規模特認校の制度についての告知は行ったか。

事務局 豊住中学校の統合の際には、小規模特認校という制度があることは伝えている。今回、豊住小学校の件に関しては、改めて小規模特認校の制度については周知していない。今後説明の機会を設けてまいりたい。

松本委員 アンケートで、行事が少なくなったという声が聞かれるが、学校の小規模化に伴うものか。

事務局 学校の小規模化に伴うものとは捉えていない。

渡邊委員 地域の方から、大規模の学校へ行きたいという声が上がった場合、小規模特認校以外の選択肢はあるか。

事務局 現状の指定学校変更の要件では、学校規模による指定学校変更をすることは難しい状況なので、保護者や地域の方に対して、理解をお願いしてまいりたい。

藤崎委員 小規模だからこそできる教育課程の実施など、学校独自ではなく、成田市として魅力的な学校にするための具体的な方策を考えていく必要があるのでは。

加瀬林委員 通学方法についてはどのように考えているか。

事務局 登校はコミュニティバスを利用することも可能であると考え。今後交通手段などについて関係部署とも検討を進めてまいりたい。

濱田委員 学区外の児童を受け入れた場合、最大何名の受入を考えているか。

- 事務局 他市町の状況をみると、定員を設けている場合は、現在在籍している児童も含めて20名以内としていることが多い。成田市としてどうするかは今後の検討課題である。
- 加瀬林委員 アンケート結果やこれまでの意見などを踏まえ、前向きに検討していただきたい。
- 濱田委員 要項に記載されている令和2年度の見通しには、特認校への周知は10月と書かれているが、もう少し早くできないものか。
- 事務局 今回はこのスケジュールはたたき台として示しておりますので、様々な意見も頂戴しながら、検討してまいります。
- 藤崎委員 「小規模特認」というと、どうしても「小規模」という言葉に注目しがちなので、その学校の魅力を感じられるような名称を考えても良いかと考える。学校に興味をもち、説明会に行ってみようかと思えるような、地域の方も誇れるような魅力が出せるとよいと思う。

## 6 傍聴

- (1) 傍聴者 5名

## 7 次回開催日時（予定）

令和2年度第1回学区審議会 令和2年8月上旬開催予定